

所在地：熊本県小国町 選定年月日：平成29年10月13日 面積：13.2ha 選定基準：一(二)

## (1) 概要

小国町は小国郷の北半分を占め、北外輪山北側斜面の標高300m以上の起伏のある斜面地に位置し、筑後川源流の杖立川が北西の日田方向へ流れます。谷底の居住地周辺に狭い耕作地が広がり、斜面上は林地、谷が深いため居住地から離れた尾根筋高台に草場が広がる傾向があり、大規模な草場は町東部の涌蓋山周辺に残ります。

筑後川下流の日田から木材の買い付けが行われた地域であり、明治6年（1873）にはさらに多くのスギ・ヒノキを運ぶ必要が生じたため、杖立川の浚渫工事が行われた記録が残っています。現在は小国杉の植林を中心とした林業景観が広がります。小国杉の起源は江戸時代に遡ると言われており、挿し木で生育する樹種であり、強度及び艶があるため優秀な木材となります。

涌蓋山麓では、九重山を熱源とする温泉が多数存在し、至る所で温泉の蒸気が噴き出しており、黒菜(くろな)と呼ばれる伝統的な葉物野菜の生産、温泉熱を生かした発電・ハウス栽培・調理等が積極的に行われています。

涌蓋山麓の草原景観は、阿蘇の文化的景観を構成する要素として重要です。



草原



野焼き

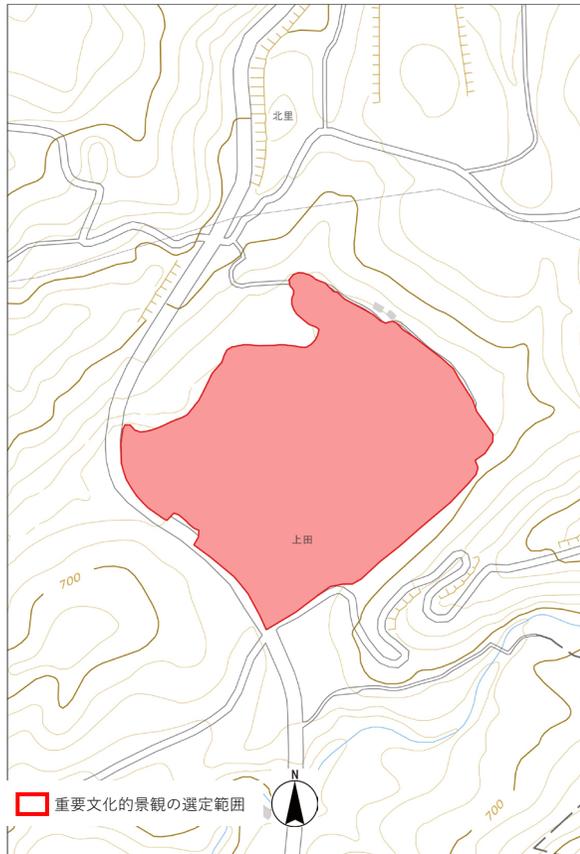


放牧の様子



涌蓋山の遠景

## （2）選定範囲



- 重要な構成要素：1件
- 町指定文化財：流湿原植物群落（天然記念物）

## （3）選定による効果

当町で選定されている範囲には、牧草の採草地とともに、希少植物の生息する湿原があり、その植物群落は町の天然記念物に指定されています。

「小国富士」と呼ばれ親しまれている湧蓋山を背景にして湿原と草地在り、周囲を一望できる展望所からはのどかな風景が広がります。このエリアが重要文化的景観に選定されたことにより、景観を守ろうという共通認識が生まれ、送電線が地中化されるなど、美しい景観が守られています。



湧蓋山麓の草原景観全景  
奥に見えるのが湧蓋山

## （4）保存活用計画などの基礎情報

- 阿蘇の文化的景観保存計画（小国町版）（平成29年1月、小国町）
- ホームページ  
<https://www.asosekaibunkaisan.com/property/landscapes/icl/>

阿蘇の文化的景観	阿蘇北外輪山及び中央火口丘群の草原景観	(熊本県阿蘇市)	No.43-04
阿蘇の文化的景観	南小国町西部の草原及び森林景観	(熊本県南小国町)	No.43-05
阿蘇の文化的景観	湧蓋山麓の草原景観	(熊本県小国町)	No.43-06
阿蘇の文化的景観	産山村の農村景観	(熊本県産山村)	No.43-07
阿蘇の文化的景観	根子岳南麓の草原景観	(熊本県高森町)	No.43-08
阿蘇の文化的景観	阿蘇山南西部の草原及び森林景観	(熊本県南阿蘇村)	No.43-09
阿蘇の文化的景観	阿蘇外輪山西部の草原景観	(熊本県西原村)	No.43-10

## (5) 活用事例

### 事例43-04~10 ①

### 広大な草原の維持のため行動する人づくり「阿蘇グリーンストック」

#### ●住民や団体等による取り組み

阿蘇の草原は、太古から野焼き・採草・放牧と人々の営みによって維持されてきました。しかし近年、高齢化や担い手不足により、草原の維持が困難となっています。

公益財団法人阿蘇グリーンストックでは、阿蘇の豊かな緑を後世へ引き継ぐことを基本理念として様々な取り組みを行っています。美しい阿蘇の草原を後世に残すための「野焼き支援ボランティア」は、講義と実技を交えた初心者研修会を行った上で、野焼き前の防火帯作りである輪地(わち)切り・輪地焼きや野焼きなどへ派遣し、地元の方々と連携し草原保全に取り組んでいます。

また多くの方々へ阿蘇の草原の美しさや価値を伝え、一緒に守りたいという思いを増すためにパネル展やシンポジウムなど普及・啓発活動にも力を入れています。

ほかにも阿蘇の草原を身近に感じてもらうと県内外の学生に向けた環境学習やファームステイなど体験プログラムも実施しています。

今後も多くの方に阿蘇の草原について伝え、一緒に考え行動できる取り組みを推進していきます。



あか牛を食べながら阿蘇の草原を考える



輪地切りの様子



野焼きの様子



講演の様子

団体等情報：公益財団法人阿蘇グリーンストック <https://www.asogreenstock.com/>

① 地域内での  
魅力の共有

② 活性化の  
目標の共有

③ 地域外への  
広報

④ 魅力を引き  
出す開発

⑤ 財源の  
確保と運用

⑥ 人づくり

## （5）活用事例

### 事例43-06 ②

### 周辺環境の保護 新設送電線の地中化

#### ●行政による取り組み

選定範囲周辺において、電柱の新設工事の計画がありました。

事業者の当初の計画では、展望所からの眺めに影響があると考えられたため、周辺環境の保護について相談し、選定範囲に隣接する場所については送電線を地中化することが実現しました。

それによって湧蓋山と一体になった景観の眺望を守り、その価値を高めることができました。



流湿原全景



エリア沿いの送電線を地中化

#### 文化財担当者の声

送電線の地中化が可能になったのは、重要文化的景観の制度を理解し、周辺環境の保護に尽力していただいた事業者の協力によるものです。これからも住民や事業者と丁寧に話し合いながら周辺環境の保護に努めていきたいと思っています。

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 地域外への広報

④ 魅力を引き出す

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり

## （5）活用事例

### 事例43-06 ③

### 地元牧野組合との協働による管理

#### ●行政と住民等の協働による取り組み

小国町では、町指定文化財（天然記念物）である流湿原植物群落の管理を、同地の草地を管理している牧野組合に委託しています。

日常的な巡回による盗掘の監視や、野焼き、草刈りなどを委託し、草原の維持とともに湿原や希少植物の管理を行っています。

行政だけでは目の届かないところを、日常的に当地を管理している団体と連携することによって、希少植物も阿蘇の文化的景観としての草地も守られています。



地元牧野組合による野焼きの様子



地元牧野組合による草刈りの様子

① 地域内での魅力の共有

② 活性化の共有

③ 広域外への情報共有

④ 魅力を引き出す

⑤ 財源の確保と運用

⑥ 人づくり